氏名： 井原　成男
所属： 人間文化創成科学研究科人間科学系
職名： 教授
学位： 文学修士
専門分野： 発達臨床心理学
E-mail： ihara.nario@ocha.ac.jp
URL： http://www.develop.ocha.ac.jp/ihara.html

## ◆研究キーワード　／　Keywords

臨床心理学／発達心理学／移行対象／アタッチメント／摂食障害

clinical psychology ／ developmental psychology ／ transitional object ／ attachment ／ eating disorder

## ◆主要業績

・引き受ける父親．幼児の教育．18(2)：4-7，29.
・ルールを守れない子の心理と対応．児童心理，63(8):752-757，29.
・子どものこころと健康 , こころの誕生、親子とこころ , 社会性とこころ , 思春期とこころ , こころの時代．新世紀の小児保健（改訂第３版）．日本小児医事出版社 ,85-12，28.
・子どもと関わる態度．遊具の意味．前回，重要と思われるテ？マが出てきた場合．にっちもさっちもいかない人の場合．川井尚編：母と子の面接入門．クオリティケア，　26,51,122,135-136,28.

## ◆研究内容　／　Research Pursuits

発達臨床心理学コースの中で、特に病院臨床（小児科心理臨床）的な研究をしている。医師でないものが患者に関わるメリットを生かすために、臨床心理学を、発達心理学的に基礎付け、将来的には一部で行われているような、発達心理学の独自性に不明なまやかしものでない、真の発達臨床心理学の専門分野を確立することを目指している。具体的には摂食障害の、長いものでは 1 年以上に及ぶ治療的関わりや、フォローアップをもとにして、発達心理学をどのように理解、治療していったらよいかに関して、一部にみられる症例に基づかない空理空論に走らぬ研究を心がけている。またその研究件成果を臨床現場や、本コースで学ぶ臨床心理士志望の陰性にどのように還元するかという実践的な研究を行っている。

さらに、子どもの母子関係という観点から、愛着に関する現代的なトピックについて、アタッチメントからの離脱という観点も含めた、移行対象の研究に取り組んでいる。

## ◆教育内容　／　Educational Pursuits

大学院においては、現在も継続している病院臨床現場の仕事を、学的体系の中に位置づけることを目指している。相手の心理の追究には自分自身の探求が何よりも大切であるという事実に力点を置いた教育を行っている。そうした自分自身を振り返る観点が抜けてしまうと、必ず、患者やクライエントを自己の利益のために利用する堕落した臨床や研究になるからである。具体的に教えているのは、臨床心理実習（ケース検討）、カウンセリング特論（実践）、心理療法特論などである。

## ◆研究計画

１．これまでに積み上げてきた臨床心理学的な知見と経験を、発達心理学的な視点の中に位置づける。(『子育てカウンセリング 「育てなおし」の発達心理学』)

２．また、認知療法的な視点、精神分析的な視点、分析心理学的な視点を統合した統合的な心理療法的視点を確立する。これはセミナー等を通じて、実践的に研究を進めつつある。

３．アタッチメント研究の新視点と、新しいインタビュー法の開発。この成果は学会、著作を通じて公表しつつある。

(『ウィニコットと移行対象の発達心理学』)

４．慢性疾患に対する心理支援について探究する。

(地域中核病院における子どもの心の支援のあり方に関する研究、思春期 IBD 患者の治療をめぐる心理的葛藤とその変容)

５．ウィニコット論の深化

## ◆メッセージ

学部生

単に学問的開発を目指すのみでなく、自らの周りで起こっていることを、単に心理学的な興味のみでなく、社会的・政治的視点をも含めて、総合的に見ていける、しなやかで自由な視点を持っている人を求めます。

つまり視点の広い人と言うことです。こうしたことを求めるのは、視点の狭さのために主観的でカルト的な心理療法家になってしまう人がいるからです。

大学院生

対象化した病理（つまり他者の病理）をみるのみでなく、オノレ自身を振り返る能力と、そうした人格形成をいとわない人を求めます（これをフロイトは投影の引き戻しといっています)。自分ではなく他人の向き合いを求める虐待、共有という名の強要、支援という名の（ソフトな）支配ではなく、真に自分自身と対峙することのできる、しなやかで genuine な感性の持ち主を求めます.